○北海道に帰化したセイヨウトゲアザミ（森田弘彦）　Hirohiko MORITA: Note on *Cirsium arvense* (L.) Scop. in Hokkaido

浅井氏は本誌55巻5号において，セイヨウトゲアザミ *Cirsium arvense* (L.) Scop. について報じ，「本種は関東や東北地方から散在的に見出されており…，恐らく既にかなり広く各地に帰化していることと思われる」と報告している。事実本種は既に北海道にも帰化しており，一部地域では農耕地に侵入して新しい強害雑草として注目されているので，その状況について簡単に紹介する。

筆者が初めて本種を見出したのは，1976年の夏で，札幌市豊平区羊ヶ丘にある農林水産省北海道農業試験場の放牧草地で，数 m^2 の群落となって開花していた。この時の標本は名称不詳のまま京都大学に送っておいた。1978年頃には同市北区篠路及び南区常山渓，中山峠間の路傍に開花しているのを観察した。1978年には南根室地区農業改良普及所の北山普及員が，牧草地に増えた雑草として筆者のもとへ持参したものが本種とアメリカオニアザミであった。1980年には札幌市内でも目立つようになったので，今後急激に増加する可能性がある。

近似種のエゾノキツネアザミは札幌（羊ヶ丘）では7月下旬から8月に開花するが，本種はそれよりやや早く，7月中旬に開花する。又，北山普及員によると，別海町では8月10日前後から降霜まで開花し，7月に入って刈り取った株には花がつかないという（昭和55年度営農改善資料）。

浅井氏の指摘するように，本種とエゾノキツネアザミが混同されていることは雑草防除の分野でも認められている。我が国雑草学の嚆矢である半沢洵氏の「雑草学（1915）」では，根の切断による雑草の分布拡大の例としてエゾノキツネアザミをあげ，Dewey の図を引用しているが，この図で見る限りはセイヨウトゲアザミであろう。また，雑草学の専門誌である Weed Research 等には *C. arvense* の生態防除に関する論文が発表されているが，従来我が国の雑草学の分野ではこれをエゾノキツネアザミにあてているので，生態防除法が両種同じに扱えるのかどうかの洗い直しが必要になろう。更に Holm らは A geographical atlas of world weeds (1979) で，*C. arvense* を日本における一般的な雑草として記録しているが，同時に *Breea setosum* も一般的としながらこの方は日本のみが雑草扱いにしているようである。これらのことは外国の関係者のみでなく，両種の関係について我が国でも相当混乱していることの例であろう。

北海道では，本種もアメリカオニアザミも，市街地での増加と並行して農耕地で増加しているのは従来の帰化植物の分布拡大のパターンとは若干異っているように思われて興味深い。

（農林水産省北海道農業試験場）